



授業リフレクション研究における 教師の洞察に關与する対話者の実態解明

キーワード

授業リフレクション, 小中学校, 教師, 授業改善, 対話, 発話分析

研究内容

現場の教員が授業の力量形成を図るために研究授業を行うことがしばしばあります。自身の教授行為や学習者の状況、教材の再検討など様々な角度から授業を振り返って授業改善に向けて洞察するのが授業リフレクション研究です。

授業者が一人で振り返るだけでなく、授業を見ていた人と対話しながら授業について考えていく手法を対話リフレクションといいます。一般的にはそれによって授業者自身にどんな学びがあるのかが研究対象となりますが、本研究では、対話者（授業を参観し授業について共にリフレクションをする人）がどうあるべきか、授業者の認識の深まりをもたらすかわかり方とはどのようなものかを明らかにしようとしています。

各地の小中学校に出向いて授業を参観し記録を取り、そのデータをもとに授業者と共に対話をします。私たち研究者が対話者となることもあります。対話者が同僚の教員の場合、外部の教員や助言者の場合など、授業者と対話者の関係性が様々なケースを取り上げて研究しています。授業者と対話者双方にインタビューをしてさらに対話リフレクションを振り返ってもらい、それも分析していきます。

主に小中学校の国語科の授業を中心に研究対象としています。

関係論文、特許・著作物等の知財情報、連携の実績

- ・阿部藤子、神原裕子、澤本和子 (2025) 「授業リフレクションにおける対話者の立場と機能～同僚教員と研究者の対話場面記録に見る特徴～」．日本教育工学会 2025 年春季大会講演論文集，271, 272
- ・阿部藤子 (2025) 「今育てたい『判断する力』とは」 益地憲一監修・国語教育実践理論研究会編著『「判断する力」を育む国語科の授業づくり』 明治図書，pp.8-11
- ・阿部藤子・神原裕子・澤本和子 (2024) 「対話リフレクションにおける対話者の思考過程 ―授業者との相互作用に着目して―」 日本教育工学会 2024 年春季全国大会論文集
- ・阿部藤子・神原裕子・澤本和子 (2021) 「看護系大学の看護教員の授業リフレクション研究 ―対話リフレクションによるジレンマと信念の認知―」『日本教育工学会論文誌』45 巻－ Suppl. 号
- ・阿部藤子 (2018) 「能動的に『きく』こと的能力表と評価」 益地憲一編著・国語教育実践理論研究会『対話的に学び「きく」力が育つ国語の授業』 明治図書，pp.20-23

社会連携・産学連携の可能性

現場の教員が授業を提供してくだされば、授業を参観し録音・録画をしてデータ作成、共にリフレクションを行います。また、校内授業研究会の事後の協議会の在り方についての提言も可能です。